MEDIA RELEASE

2022 年 6 月 13 日

「Team Noah HONDA CIVIC TCR」
4 年ぶりに富士 24 時間制覇

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook に参戦する「Team Noah HONDA CIVIC TCR」は、6 月 3～5 日に富士スピードウェイ(静岡県)で開催されたシリーズ第 2 戦「NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース」の ST-TCR クラスに参戦。チームとして 4 年ぶりにシリーズ最大のイベントを制した。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表：清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！“を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐にフル参戦。参戦車両はホンダ・シビック TCR で、昨年は念願のクラスチャンピオンを獲得した。今回のドライバーは塚田利郎、蘇武喜和、金丸ユウ、三浦康司、“J”、清瀧雄二の 6 名で臨んだ。チーム初合流の金丸はルーツが熊本、三浦と”J”もチーム初合流で、”J”は S 耐デビュー戦となる。ST-TCR クラスは今回 2 台の出走で、全体では 9 つのクラスに 56 台がエントリー。富士は 1.5km のストレートを持つ国際コースで、24 時間レースは 2018 年に復活開催され、”SUPER TEC 24 時間レース”としては 5 年連続開催。Team Noah は 2018 年大会でクラス優勝を遂げている。

3 日の午後に行われた予選は A、B ドライバー2 名のベストタイム合算で争い、塚田と蘇武のベストタイム合算の結果、総合 15 位、クラスポールポジションを獲得。また金丸と三浦も基準タイムを難なくクリアし、”J”と清瀧もフリー走行を済ませた。

決勝レースは 4 日の 14 時 59 分にスタート。ステアリングを握るのは TCR ジャパンシリーズでもシビック TCR の運転経験のある金丸で、ライバルの 97 号車シビックを寄せ付けない走りでトップを守って蘇武へ。予定では 1 スティントを 1 時間半としピットインのたびにドライバー交代をしていく。そして三浦、塚田へつなぐと 97 号車シビックとの差は 3 周まで広がったが、油断は禁物。夜の帳が落ち花火も打ち上がり、金丸、蘇武に交代して日付が変わると、塚田、三浦へ交代。レースも半分を消化した夜中の 3 時半近くに、97 号車シビックがトラブルでコース上にストップ。この修復に時間を要し、2 台の差は大きく広がった。明るくなった 5 時前には義務付けられた 10 分間のサービス(車両メンテナンス)タイムも消化し、清瀧、金丸、蘇武、”J”、金丸と順調に交代し周回を重ねた。

しかしゴールまで 2 時間となる直前に駆動系トラブルで緊急ピットイン。97 号車シビックとの差は 100 周以上もあり、用心を期して 4 輪のハブを交換し清瀧がコースへ出た。その後はピットで車両を待機させる余裕もあり、残り 30 分を迎える前に”J”がコースへ出て、15 時過ぎに歓喜のトップチェッカーを受けた。チームは 4 年ぶりの富士 24 時間制覇で、シリーズ戦は開幕から連勝となった。

第 3 戦は、7 月 9～10 日にスポーツランド SUGO(宮城県)において、グループ別 3 時間レースとして開催される。

塚田利郎「予選から一度もトップを譲ることなくゴールできたのはちょっと意外でした。前半は 3 周差と簡単にひっくり返されるギャップだったので、マッチゲームでずっと緊張していましたが、相手のトラブルもあって楽になりました。実際こちらにもトラブルはありチェッカー受けるまではドキドキでした。それにしても 4 年ぶりの富士 24 時間優勝を飾れてとてもうれしく思います」

蘇武喜和「なかなか勝てない富士 24 時間でしたが、4 年ぶりに勝てました。去年は 97 号車に対し逆の展開で苦しみましたが、今回は最低限のトラブルでゴールできて良かったです。メカさんたちもしっかり準備してくれました。レギュラードライバーは頑張ったし、スポットで乗ってくれたドライバーも自分のできることを力にしてくれたし、すごく良いチームワークでした。次のレースもこの勢いで勝ちたいです」

金丸ユウ「クルマ自体は乗り慣れていたこともあったので、蘇武さんと相談しながらセットアップを考え、チーム全体のバランスを見て 24 時間に向けたクルマ作りができました。走っている時もペースが良く、チーム一丸となって勝つことができて本当に良かったです。100R でハブが壊れた時は飛びそうになりましたが、ハブだけで済んで良かったです」

三浦康司「スポットで参加させてもらいましたが、シビック TCR は初めて乗るクルマだったので、チームの皆さんに迷惑をかけないように一生懸命走りました。チームの皆さんの頑張りで勝たせてもらいました。しかも 24 時間レースの優勝で、本当にうれしいです」

“J”「初めての S 耐でゴール担当という大役を任されましたが、最後のチェッカー受けるまで油断せずドッキドキしながら走りました。本当にチームの皆さんのおかげで、チームワークって大事だなと思いました。人生も仕事もすべてチームワークが大切ですが、S 耐はそれが究極ですね。素晴らしいドライバーさんの中で走れたことは僕の宝です。S 耐にはまた出ます」

清瀧雄二「富士 24 時間は毎年いろんなことがあります。今年はハブのトラブルがあっただけで壊れませんでした。いろいろと進化しているのでしょうね。このレースではメカニックが本当に良く仕事をしてくれました。あとマネージャーも本当に大変だったと思います。もちろんドライバーも頑張りました。今回のポイントは大きいので、今季もチャンピオン目指して頑張ります」